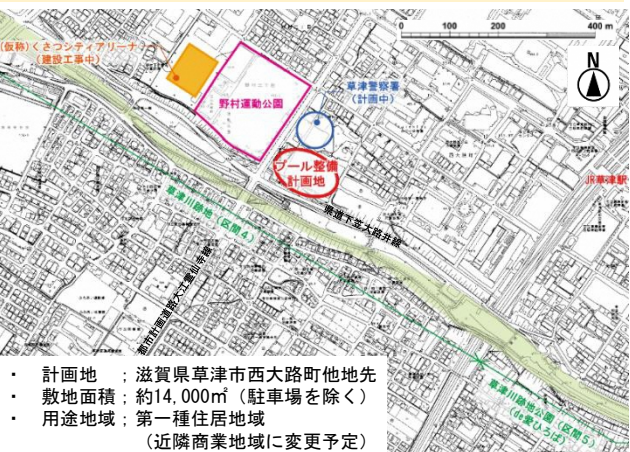


■ 整備の背景

平成36 (2024) 年に開催予定の第79回国民スポーツ大会 (国スポ) および第24回全国障害者スポーツ大会 (障スポ) の競技会場として、また、国スポ・障スポ後の施設利用を見据えて、「スポーツ環境の充実」「新たなにぎわいの創出」「スポーツ健康づくりの推進」を実現し得る施設として、(仮称) 草津市立プールを整備することとした。

■ 周辺環境



■ 基本方針

- ① スポーツ環境の充実
 - ・ 国スポなど水泳競技における大規模大会の開催を可能とし、県および市の競技スポーツの推進に寄与する施設とする。
 - ・ 競技スポーツの基盤を確かなものとし、更なる競技力の向上を図るため、選手の育成・強化が行える施設とする。
 - ・ 子どもから高齢者まで、障害のある方もない方も、ビギナー (初心者) からアスリート (競技者) まで誰もが利用しやすい施設とする。
- ② 新たなにぎわいの創出
 - ・ 中心市街地のにぎわい創出に貢献する施設とする。
 - ・ 気軽に参加できる様々なスポーツイベントの開催によって、新たな交流のきっかけとなる施設とする。
 - ・ 大規模大会の開催などを通じ、全国から人が集まり、周辺施設の利用も含めて、地域活性化のきっかけとなる施設とする。
- ③ スポーツ健康づくりの推進
 - ・ 「健康しが」「健幸都市くさつ」の実現に寄与するために、草津市民をはじめとする県民の健康づくりにつながる施設とする。
 - ・ 水泳などを通して、健康増進や体力向上、心身のリフレッシュが図れる施設とする。
 - ・ 水泳や水中ウォーキングなどの生涯スポーツやレクリエーション活動の場として一年中利用できる施設とする。

■ 導入機能

- ① 水泳競技大会開催機能
- ② 競技力向上機能
- ③ 健康拠点機能
- ④ 利用促進機能
- ⑤ 交流・コミュニティ機能
- ⑥ 防災機能

■ 周辺施設との連携

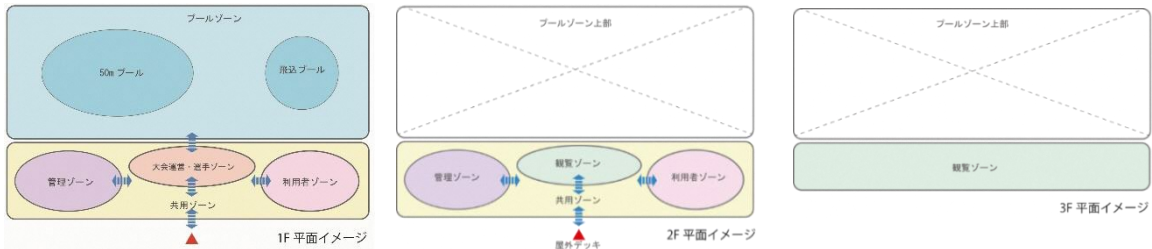
野村運動公園や草津川跡地公園 (区間5) 等の周辺施設との連携により、年齢、障害の有無、経験などに関わらず県民、市民が日常的にスポーツに親しみ、楽しむことができ、また、地域に開かれた施設として、「健幸都市づくり」および「中心市街地の活性化」に寄与し、新たなにぎわいの創出、スポーツを通じた健康づくりの推進を図ることを目指す。

■ 必要諸室・規模

| | | |
|-------|---|--|
| プール施設 | 50m屋内温水プール 25m屋内温水プール (飛込兼用) 観客席 (約2,500席、仮設席含む) | |
| | 選手控室・招集室 器具庫 | |
| | 諸室 (会議室、医務室等) | |
| 付属施設 | 更衣室、多目的更衣室 トイレ、多目的トイレ 飛込ドライランド トレーニングルーム、スタジオ キッズスペース | |
| | 管理・共用施設 | 事務室 休憩室 応接室 中央監視室 その他通路・設備室等 |
| | | 延床面積合計 13,500㎡程度 |

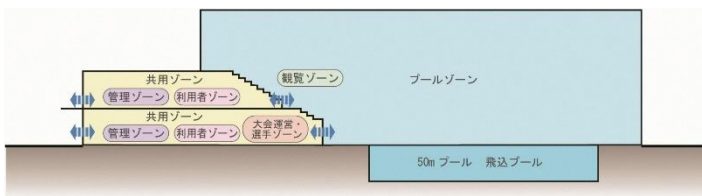
■ 平面・ゾーニング計画

・ コンパクトな施設配置と機能性・利便性を両立した施設計画とする。



■ 階層構成

・ プールゾーンに必要な高さを確保しながら、コンパクトな施設配置を実現した階層構成とする。



■ 事業費

| | | |
|---------------|---------|---------|
| 施設整備費 (税込) | 建設工事費 | 約89.9億円 |
| | 付帯工事費 | 約2.7億円 |
| | 初期備品購入費 | 約3.8億円 |
| | 基盤造成工事費 | 約1.5億円 |
| | 調査・設計費 | 約2.0億円 |
| | 合計 | 約99.9億円 |
| 維持管理・運営費 (税込) | | 約3億円/年 |

※ その他、用地取得費等を想定 (約1.8億円)

※ 事業費・料金収入は現時点で概算であるため、今後、検討の進捗などを踏まえ精査を行う

■ 料金収入

| | | |
|-----------|----------|-------------------------------|
| 利用者数 | 約6.9万人/年 | |
| 利用料金 (税込) | 大会利用 | 約6百万円/年 県内大会のうち本施設での開催分を想定 |
| | 個人利用 | 約36百万円/年 潜在需要を想定し競合施設数で除算 |
| 合計 | 約42百万円/年 | |

■ 費用対効果 (47年間供用と想定)

| | | |
|---------|-----------|----------|
| 効果 (税抜) | 施設整備 | 約129億円 |
| | 維持管理・運営 | 約94億円 |
| | にぎわい・観光消費 | 約42.3億円 |
| | 料金収入 | 約17.86億円 |
| | 合計 | 約283.2億円 |
| 費用 (税抜) | 施設整備 | 約90.8億円 |
| | 維持管理・運営 | 約126.9億円 |
| | 合計 | 約217.7億円 |
| 費用対効果 | | 1.30 |

※ 効果は産業連関表より算定した

■ 事業手法

事業スケジュールが長期化するというデメリットがあるが、民間のノウハウ活用による運営の効率化やVFMの発現が期待されるため、PFI方式を採用する。(シミュレーションVFM=7.1%)
 ※ 実際のVFMは今後、特定事業の選定等の詳細な検討のなかで、改めて算定する。

■ 事業スケジュール

| | |
|------------------|--------------|
| 平成30年10月～平成32年6月 | 事業化手続き |
| 平成32年7月～平成33年5月 | 造成・道路工事、設計期間 |
| 平成33年6月～平成35年5月 | 建設期間 |
| 平成35年6月～平成35年7月 | 準備期間 |
| 平成35年8月 | 供用開始 |